

# 「水都・大阪」 近未来ビジョン

	最近時まで	新しい動きと水都復活の兆し（現在）	水都復活の加速と本格化（直近）	水都復活に向け整える諸条件	水都復活の三本柱
大阪市の課題と動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市構造の変化（自動車社会の深化）</li> <li>・産業構造の変化（製造業から第3次産業へ成長セクターの移動）</li> <li>・東京一極集中と企業オフィスの空洞化</li> <li>・財政危機と行政改革</li> <li>・教育、市民社会の脆弱化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都心居住が進む。潤いとゆとりのある街づくりへの動き</li> <li>・創造力のあるセンターをつくる試みが始まる</li> <li>・道州制等地方分権、地域主権への取り組み</li> <li>・行政改革と財政再建に着手</li> <li>・市民参加による街づくりが動き出す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都心の第1級の居住環境の整備</li> <li>・市民参加による街づくりの継続と賑わいの創出</li> <li>・道州制の突破口を開く、州の中核都市としての姿を描く</li> <li>・改革の成果を市民の財産として残す、街づくりの本格化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道州制の実現と州の中核都市としての街づくりのコンセンサスを得る</li> <li>・行財政改革を完遂し、活力ある行政を取り戻す</li> <li>・創造力と国際競争力のある産業を生む</li> <li>・市民の活力と誇りを取り戻す</li> </ul>	「水都・大阪」の復活
中之島の課題と動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大企業オフィスの空洞化</li> <li>・大阪大学移転後の創造的、知的セクターの喪失</li> <li>・交通過疎と東西格差</li> <li>・大企業中心のイメージと賑わいの欠落</li> <li>・親水性の喪失と水辺からの市民疎外</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中之島線開通が近づく</li> <li>・民間の大型事業が始動</li> <li>・官による親水空間の整備</li> <li>・市民参加の街づくり（桜の会平成の通り抜け、美しい大阪をつくる100万本のバラの会運動）</li> <li>・イベント等により市民が水に親しむ機会が増える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中之島線の開通</li> <li>・官・民の事業により親水空間を出現させる</li> <li>・中之島四丁目、五丁目の整備により西の中心ができる</li> <li>・市民参加の街づくりが定着する</li> <li>・「水都大阪2009」により水辺の賑わいが定着する</li> <li>・水質浄化により市民に清流を取り戻す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共交通機関へのモーダルシフトを進める</li> <li>・ヒートアイランド対策を抜本的に進めるコンセンサスを得る</li> <li>・都心部高速道路の移設等について検討を進め、方向を定める</li> <li>・水都の景観改善のコンセンサスを得る</li> <li>・エネルギー問題解決、環境問題解決のための世論が形成される</li> <li>・クリーン自動車の技術開発が進み、普及が進む</li> <li>・河川の水質浄化を進める</li> </ul>	交通ゼロエミッション都市化 環境都市創造
御堂筋の課題と動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バブル崩壊による経済構造変化</li> <li>・大企業オフィス移転による空洞化</li> <li>・違法駐車等の社会問題の顕在化</li> <li>・賑わいの喪失</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブランドショップ等、新しいリーダーの登場</li> <li>・有力企業の復活</li> <li>・市民による街づくり活動が始動</li> <li>・文化イベント等、賑わい創出が活発になる</li> <li>・大型民間投資が動き出す</li> <li>・高さ規制等、新しい街づくりの基準が検討される</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共交通機関へのシフトと自転車、歩行者中心のゆとりのある街並みをつくる</li> <li>・大型民間投資が継続する</li> <li>・市民参加の街づくりが定着する</li> <li>・文化イベント等が継続する</li> <li>・ヒートアイランド対策として「水の路」を導入する</li> <li>・新しい街づくりの基準の導入が進む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・御堂筋に続き、北ヤード、中之島西部、天王寺を結ぶ都市軸を形成。公共交通機関、ビジネスの張り付き、賑わいの形成、ゆとりと潤いの街並みを目指す。「水の路」によりヒートアイランド対策にも配慮する。</li> <li>・天満、大阪城、京橋、上町台地、四天王寺、の生活文化軸を形成し、大阪の都市軸の多様化を図る。既存の水の資源を生かし「水の路」とする。</li> <li>・中之島全域、口の字回廊に親水護岸等の水に親しむ空間をつくる</li> </ul>	都市軸の多様化・多層化 ＝水都モデルの拡大
舟運の課題と動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・川は市民から疎外され、街の裏となる</li> <li>・水辺に人が来ず、舟遊び、観光舟運が衰退</li> <li>・船着場、水門等の管理がバラバラで円滑な舟運の妨げとなる</li> <li>・舟運事業者が弱小で事業のプロモーションができない</li> <li>・水が汚く、悪臭もあり馴染めない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・八軒家浜をはじめ公共船着場が整備される</li> <li>・市民の意識が徐々に川に向かい、イベント等により人出も少し増える</li> <li>・新規の航路、企画が次々試験される</li> <li>・統一のブランドを掲げ、プロモーションをする協議会が設立された</li> <li>・淀川本流の水質改善等により、大幅に水質は改善された</li> <li>・八軒家浜をはじめ枚方の舟運復興の動きが出て、連携も進む</li> <li>・管理の一元化、運用の円滑化が図られる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「大阪シティクルーズ推進協議会」の下、水都の舟運の全国へのプロモーションが進む</li> <li>・「水都大阪2009」により大阪の舟運が盛り上がる</li> <li>・水質浄化が進む</li> <li>・船着場等の管理が円滑に進み、水上交通のルールも周知される</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・船着場等の口の字全体への拡大</li> <li>・橋と水面のクリアランスの確保</li> <li>・水質浄化が進む</li> </ul>	舟運活性化